

# 第 11 回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

## 1 日時・会場

平成28年12月8日（木） 10:00～11:30  
厚別区役所2階 会議室C

## 2 出席者（敬称略）

白川 典洋（小学校長会厚別支部）  
波多野 達郎（厚別区PTA連合会）  
田中 昭夫（公益社団法人札幌市子ども会育成連合会）  
藤島 敬久（厚別南まちづくり会議）  
安居 法仁（青葉地区まちづくり会議）  
押田 純（厚別西地区まちづくり会議）  
井上 満（もみじ台まちづくり会議）  
栗原 佐外夫（厚別東地区まちづくり会議）  
野川 順子（厚別区青少年育成委員会連絡協議会・厚別区保護司会）  
原田 剛（厚別警察署生活安全課）  
竹内 恒之（北海道コカ・コーラボトリング(株)）  
神 昭一（厚別警察署少年補導員連絡協議会）  
美藤 加代子 厚別区市民部長  
國島 徹 厚別区市民部総務企画課長  
嶋田 愛一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長  
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

## 3 会議内容

### 【1】厚別区の犯罪発生状況について

- 刑法犯の認知件数は、本年10月末現在では485件であり、前年より77件減っている。ただ、特殊詐欺や子どもと女性に対する声掛け事案、強制猥褻が横ばい、もしくは増加傾向にある。特殊詐欺は、10月末現在で認知件数4件、被害総額2,178万円。昨年より今年は少し減っている。

内訳は、1月にNPO法人あすなろ会に「あなたの名前が登録されている。」と電話があり「名義貸しであなた訴えられますからね。」と言われ示談金7,500万円を支払ってしまった。これは訴えられるということで警察にも家族にも誰にも相談できない状況に追い込んで払わせるという手口。

2月には昔からあるオレオレ詐欺の手口で、被害者の息子を名乗る男から「今東京にいるけど女性を妊娠させてしまった、相手の親とトラブルになっているので500万円払わなければならない。併せてキャッシュカードも貸してほしい。」という電話があり、言われたショッピングモールで500万円手渡してしまった。

7月もオレオレ詐欺があり、長男を装った男から「喉が痛いので病院に来たら悪性で緊急手術が必要になり、家に財布を忘れてしまったので部下を向かわせるので現金400万円用意してほしい。」との電話があり、厚別警察署の近くの場所を指定して現金を手渡した。

10月は警察官を装った人から電話があり「詐欺グループ犯人を逮捕したら名簿の中にあなたの個人情報があったので現金を抜かれるかもしれないので口座に入っているお金を全て下ろした方がいい。」と言われた。下ろした後にまた電話がかかってきて「別な人のお金を調べると偽札が入っていたのであなたのお金も調べさせてほしいので預かります。」と言われて850万円を手渡してしまった。この事案で受け子は逮捕されているが詐欺グループはまだ逮捕されていない。受け子はアルバイト的に雇われて2~3万円手渡されて言われた通り運ぶだけなので、詐欺グループとほぼ面識がない。なので850万円盗られて未だに戻っていない。この4件が今年認知した件数であるが、被害届を出していない人も約倍くらいいる。恥ずかしいのとお金が戻ってこないという理由で被害届を出さないようで、倍の件数となると被害総額も倍くらいになる。

次は公然猥褻に対する性犯罪被害について。9月以降厚別署管内で急激に公然猥褻事案が連続して発生した。近くでは厚別中央のJR高架下から北方面に進行した地点で公然猥褻が連続して発生した。大谷地西の清田区との境目あたりでも発生している。もみじ台と青葉地区でも発生しており、この2か所は同じ被疑者と思われる。北広島市西の里でも発生している。大きく4か所で発生しており、いずれも被疑者は別人と思われる。あまりにも発生するので報道機関にお願いしてニュースで特集をしてもらったら、それ以降ピタッと発生が止まったが、逆につかみづらくなった。ただ1名新札幌で公然猥褻で逮捕したが、おそらく連続発生と関係のない被疑者と思われる。その他、盗撮事案が新札幌と大谷地で非常に多い。この時期外での声掛け事案がかなり減るが、盗撮が多くなる。

これから年末にかけてコンビニ強盗も多くなるのでパトロールを強化しようと思う。

## 【2】厚別区防犯ネットワーク規約の変更について

### 事務局

資料2について説明する。前回の会議で承認いただいた「厚別警察署少年補導員連絡協議会」を構成団体に追記している。変更の日付は前回承認いただいた7月21日としている。

## 【3】厚別区内小学校6年生を対象とした防犯アンケートの集計結果について

### 事務局

このアンケート調査は前回の会議の中で波多野副代表から子どもが実際に感じてい

る見守りの状況をこの会議の中で集約できないかと提案いただいた。その後白川代表とも協議したうえで、厚別区の小学校 15 校の 6 年生を対象に 10 月に実施した。アンケートは約 1,000 人を対象として 952 人から回答をいただいた。内容は資料 3 のとおり。

- 結果をみると、登校時に見守る人は多いが、下校時が少ないと見守られているという意識が低いので、下校時の見守りを重点的に行わなければいけないと思う。
- 同じ新興住宅地でも、怖いと思ったことが多い学校と少ない学校があり、こういう傾向のあるところが事故が多いとかヒヤリ・ハットが多いなど少しわかってくると、今回の調査と連携がとれていいのかと思う。学校側としてはヒヤリ・ハットがいつも話題に上がっており、学校単位でも違った数値がでている。

#### 【4】各構成団体から

- 10 月か 11 月くらいに青空公園で夜 10 時半くらいに悲鳴が聞こえたということで近所の方が警察に通報した。後日確認すると特に何もなかったようだが、当地区でも定期的にパトロールしているので、それ以外に事件などはない。
- スクールガードが 14 人いるが、年齢は 70~80 歳代が中心であり、65 歳くらいのもうちょっと若い人を増やしていきたいと考えている。また、スクールガードをしていると、PTA との関係が希薄であると感じる。14 人の中に PTA は含まれていない。もう少し PTA にも関心を持ってもらいたいと思う。年に 1 回か 2 回は活動をしているようだが、人数は多くなくてもいいので、もう少し回数を増やしてもらえればと思う。これについては学校と PTA との問題なのでこちらが口を出すことはしないが、その部分の配慮をもう少し考えてもらいたいと思う。
- 区 PTA 連合会の会議でもテーマになるのが地域との連携であり、学校側でもこういった話をしているが、一番意識が弱いのが PTA である。これをどうやって啓発していけばいいかとなっても、PTA からこれ以上仕事を増やさないと云われるのが現状である。非常事態でもなければ意識は上がっていかないのかと思う。一昨年区内で殺人事件があったときは一斉に防犯の機運が盛り上がったが、今はもう全く活動をしていない。
- そもそも、日頃の町内会での世代間交流をどのくらいやっていくかということだと思う。年齢の高い人から若い世代に近寄って行くことが必要であり、防犯ということにこだわらず、いろいろなところで世代間がつながっていくことが必要である。
- 自治連合会では青葉小学校とふれあう行事をいろいろと催しているが、年齢的なこともあって自治連合会の人たちはみんなくたびれている。様々な行事を行うたびに人は出てくるが、動ける人がいない。地域には元気な人がいるように見えて、実際はいない。このような状況でどこまでやれるのか。これから大変だと思う。なので、我々が元気なうちに何ができるか思案中である。
- 町内会の活動としては、小野幌小学校 1 年生の下校時間に合わせて役員と防犯部員が 5 人体制で毎週火曜日パトロールを行っている。また、老人クラブも毎週金曜日パ

トロールを行っている。このパトロールは 10 年くらい続いており、今後も継続したいと思っている。その他、小学校との関係では 6 月に花いっぱい運動として幹線道路に 1,500 株の花を植えている。夏休みには毎日近くの公園で児童 80 人と町内会 50 人でラジオ体操を実施している。町内会の夏祭りにもたくさんの子どもが参加している。厚別中学校とは、同じく 6 月に花いっぱい運動として国道 12 号線の街路弁に花苗を植えている。また、毎年 1 月末には生徒 150 人と町内会連合会役員とで消火栓の除雪をしており、2~3 年前からは啓成高校と北星学園大学付属高校の生徒にも参加してもらっている。今後もこれらの活動を継続していきたい。

- 昨今、飲酒運転が後を絶たない状況であるが、11 月 28 日に飲酒運転根絶に向けたポスターを厚別警察署管内の当社自販機 200 台に貼って啓発活動を行った。昨年 11 月 26 日に制定された「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」に合わせ、厚別警察署とタッグを組んで少しでも飲酒運転を無くそうと立ち上がった。自動販売機の電光掲示板には防犯に関するメッセージを流し、子どもの安全を見守る運動として営業車両にステッカーを貼っている。
- 資料 4 について説明する。厚別区役所では小学生を対象とした地域安全マップ作成の支援をしている。我々が紹介する地域安全マップとは、危険な場所を示したマップを作成して子どもに教えて犯罪を防止することのみを目的とせず、犯罪者が好む“入りやすく見えにくい場所”を子ども達自身が見つけて分析して対処方法をマップ作成を通じて学んでもらうという取り組みそのものであり、マップの出来が良いとかマップの中身を確認するというより、作成そのものが子ども達の学びになる。これを実行することで、住んでいる地域のみならず、旅行先などでも能力を活かすことができる。今年度は区役所が支援して共栄小学校で実施しており、上野幌西小学校では独自で実施していると聞いている。共栄小学校は 10 年くらい継続して毎年実施しており、区役所はポラロイドカメラなどの物品を貸与し、区役所の職員が事前に主旨や注意事項の説明をして現場に同行している。2 年前に小学校校長会で地域安全マップの説明を行っているが、校長先生も人事異動により代わっているので、来年 1 月の小学校校長会にて再度周知させていただきたいと思っている。ただ、実施にあたっては必要な授業時間を確保しなければならないので、教育の現場で導入することは難しい場合もあるかと思うが、子どもの防犯能力を高める手法としては大変有効であるので、カリキュラムの中で一つの候補として考えていただければと思う。
- 活動としては、区内 6 か所の交番を中心に 10~15 人補導員が配置されて、地域の補導活動、有害環境の浄化活動をしている。本部としては青少年の健全育成非行防止に関する研修に各支部から出席させている。また、区民まつりやよさこいなどの行事で補導活動を行っている。10 月末時点での少年の犯罪は昨年と比較して半減している。

自分は青葉町自治連合会と単位町内会でも活動しているが、青葉小学校の下校時の見守り活動のため、自治連合会に青パトを再建してもらおうということで、青パトと自主パトロールを兼用して行っている。6 月 17 日から先月まで延べ 47 回行っており、その中で不審者はほとんどいないが、1 か所だけ団地の公園の近くで声掛け事案があった。

当初、自分も小学生からすると変なおじさんだったと思うが、10月14日に自分の写真を公開して、児童に見回りしていることを知ってもらい、学校で待っている時も児童が寄ってきて挨拶をしてくれて、だんだん認知されて見守られているという気持ちになってきていると思う。ただ、スクールガードも10数人おり、町内会や見守り隊の人もいるが、下校時に立っている人はほとんどいない。登校時は交通安全指導員が立っているが、やはり人の目は大事だと思う。青パトも自分を含め3人しかいないので、今後増やしていけたらと思う。

- 鉄道高架下は不審者が多い。まちセンを通じて自分のところにも年に10回以上情報が入ってくる。

町内会でいうと自分が所属する厚別中央振興会は、信濃小学校のおやじの会と密接な関係になっており、おやじの会で行事を行う場合は町内会が手伝い、逆もそうである。いい関係が出来ており世代間交流が進んでいる。

今、厚別区内で子ども会がある町内会は31しかない。子ども会では子ども達に生きるちからをつけてもらおうとしている。生きるちからとは、自制心、協調性、誠実な心、これらを身に付けてもらおうと活動している。各地区でも町内会の中で子ども会の立ち上げについて協力していただけたらと思う。

- 青少年育成委員会としては子ども達を対象とした行事を行うということで、区民まつりでは輪投げのコーナーを設け、そこでの収益を成人式の記念品に充てている。また札幌市全体として、専用のステッカーを貼った「子どもを見守る店」に毎年育成委員が状況確認に行き、区役所地域振興課に報告している。自分は厚別西地区を担当しており、地区内の店舗に状況を確認しに行くが、子どもの万引きは無いが、高齢者がお金を持っているにもかかわらず万引きしているのが最近の特徴である。認知症なのか確信犯なのかわからない。

自分たちもパトロールをしているが、現役世代が多いので時間帯が夕方6~8時であるので、もう少し早い時間に行かないと効果が無いと感じている。育成委員を構成している年齢としては、PTAを卒業して町内会に入る前で子どもの見守りに関心のある人なので、来年改選期を控えて人材を探すのに苦労している。

また、厚別西地区では小中学校のPTA、学校の先生、児童会館で子どもに関わる方に集まっていただき、育成委員と交流会を開いている。先ほどから話にでていたPTAと町内会をつなぐ役割を我々育成委員も担えるのではないかと考えている。

保護司会としては今回関係団体として参加させていただいている。保護司会は犯罪者の更生を行うということで、昔は“黒子”として表に出ない存在であったが、予防活動を行うという内容の法改正があって、全面に立って犯罪予防活動をするようになった。7月は「社会を明るくする運動」の強調月間であり、区民まつりのときに壇上でPRさせてもらっている。更生保護サポートセンターも平成27年1月に区役所に開設し、保護司が駐在しているので困ったことがあったら来てほしい。

- 自分は地域と学校を連携したいと思いき々な会議に出席しているが、どういうわけか連携ができない。話題にはあがるものの実現できないので、何かもうひと押し必要だと

いつも思う。事例を一つあげるとすれば、文科省が推薦している学校支援地域本部という地域を紐づける事業があるが、こういうところを利用することによって、少しでも世代間交流や連携が進んでいけばいいと思う。実際に実のなることを一つ一つしていかないと、我々のような現役子育て世代としては2~3年やって何も変わらなければ気持ちも離れてしまう。防犯をするには関係者が集まりやすい環境づくりが必要であり、地域の人を巻き込んだコミュニティースクールでも学校支援地域本部でもいいので、そういうものをどんどん導入していけば、結果的に防犯につながると思う。

## 【5】来年度の事業計画について

### 事務局

資料5のとおり。防犯教室については、小学校側の都合もあり、昨年と同様に6月の開催を予定している。来年度は、地域住民の参加ができるように改善していきたい。詳しい内容については、今後代表と検討していくが、何かあればこの会議でみなさんからご意見をいただきたい。

## 【6】その他

- 札幌市厚別区保護司会について次回からは当ネットワークの構成団体に含めるということよろしいか。(一同承認)

(文責：厚別区総務企画課地域安全担当係)